

科目区分	専門教育科目	科目名	相談援助		科目コード	18Y680	担当者	荒木 正平			
対象学生	幼児教育学科 2年生		学期区分	前期	単位数	1	担当形態	クラス分け			
科目			施行規則に定める科目区分又は事項等			卒業要件		選択			
						免許・資格要件		保育士必修			
科目の主題						学修成果との関連（大◎、中○、小△）					
保育と相談援助のかかわりや必要性を理解し、保護者・子どもへの相談援助・支援の基礎を身につける。						1. 「 尽心 」 誠実な人柄と人間力		2. 「 創造 」 高度な知性と創造力		3. 「 実践 」 明確な意思と実践力	
科目の到達目標						① 誠実性・真摯性	② 多様性・協働性	③ 知識・技能	④ 思考・表現・創造力	⑤ 実行力・自立性	⑥ 就業力・貢献力
1.	保育士として相談援助にかかわることの必要性を理解する。										
2.	相談援助の考え方やその視点、援助の進め方などの基礎を理解する。										
3.	自己の意見を明確にしつつ他者の意見にも耳を傾け、協力して課題に取り組む姿勢を身につける。										
4.	子育て支援に関わるさまざまな社会資源を学び、連携の有用性を理解する。					○	◎	○	◎	○	△
5.						成績評価の方法と割合					
授業方法						定期試験（50%） 提出物（20%） 発表内容（20%） 受講態度（10%）					
基本的な技術や知識について、まずは講義形式で授業を実施する。さらに、テーマに沿った具体的な事例などを用いて演習（個人ワーク・グループワーク）を行い、相談援助に不可欠であるコミュニケーション力や人間関係力を養う。											
準備学修						課題等への対応					
日頃から、児童虐待など子育ての現状や課題に注目し、自分なりに考える習慣を身につけてほしい。友人や教員などとも積極的に関わり、価値観の多様性に触れることが大切である。関連する資料の視聴などを含め、予習・復習に年間24時間以上を確保してほしい。						個人の提出物は確認後返却するが、必要に応じてクラス全体に紹介することもある。グループ学習での検討内容は、クラス全体に成果を還元するため、発表と質疑応答の時間をとることを原則とする。					
授業計画											
第1回	子育て家庭の現状・課題と、相談援助の意義										
第2回	保育と相談援助										
第3回	相談援助とは何か①										
第4回	相談援助とは何か②										
第5回	相談援助の過程（進め方）										
第6回	相談援助者の資質・態度と技術を学ぶ①（自己覚知）										
第7回	相談援助者の資質・態度と技術を学ぶ②（他者理解）										
第8回	相談援助者の資質・態度と技術を学ぶ③（基本的態度等）										
第9回	相談援助者の資質・態度と技術を学ぶ④（記録）										
第10回	相談援助を行う前に										
第11回	相談援助の過程①（インテークとアセスメント）										
第12回	相談援助の過程②（援助計画）										
第13回	相談援助の過程③（実施・評価）										
第14回	困難事例への対応（個人ワークとグループワーク）①										
第15回	困難事例への対応（個人ワークとグループワーク）②										
試験	定期試験を実施する										
教科書	「演習・保育と相談援助」 監修 前田敏雄 みらい				受講生へのメッセージ	保育者には、子ども本人への理解を深めることはもちろん、保護者や周囲の支援者との連携も求められます。本講義で相談援助の意義と価値を理解し、「聴く」力、「共感する」力を高め、よき支援者となれるよう成長していきましょう。					
参考書等	なし										